



Sazanami Label

SAZANAMI LABEL loves '60s sound ELEKI, GS, SURF, GARAGE, R&R, MODS, HOT ROD, SHOWA POP SONG...

(有)オール・クリエイティブ・エンタテインメント 〒166-0002 東京都杉並区高円寺2-8-12 ミクラビル302

http://www.sazanamilabel.com E-Mail: otayori@sazanamilabel.com Tel&Fax: 03-3223-5177



ゴグルエース

「ビックリ キョーテン ウチョーテン」

～KENJI SAZANAMI TRIBUTE～

2005年9月25日発売 SZNM-1014 ¥2310 (w/tax)

協力:シンコーミュージック

流通:ダイキサウンド CR JAPAN REVERSE 他

今年の6月6日に逝去した、60年代の大訳詞家「漣健児(サザナミ・ケンジ)」に捧げるトリビュートアルバム急遽発売!!

訳詞家とは、海外の楽曲に日本語詞をつける専門作家のこと。1960年代を代表する訳詞家である「赤鼻のトナカイ」「ミッキーマウスマーチ」「ヴァケーション」などのヒット曲で知られる漣健児。主な活動期間は60年代前半ロカビリーブームから後半のビートルズ旋風あたりまでのわずかな数年間にもかかわらず、400曲以上の作品を残した。

その漣健児と交流があり、GS・エレキ・昭和カバーポップス等のフォロワーであるゴグルエースが愛情タップリに作り上げたのが今作である。ゴグルエースは普通のライブや多数の海外ツアーでも漣ナンバーをよく演奏しており、生前にそのライブを見た漣氏から「楽しくてワクワクしたよ!」とお墨付きも貰っている。今回シンコーミュージックの全面協力のもと、サザナミ・レーベルからこのトリビュート盤が緊急発売決定! 単独アーティストによるトリビュート盤は異色とも言えるが、訳詞家という性質上、純粋なカバー集としても解釈できる。また、未発表の漣健児オリジナル作品である「坊ちゃん坊」(2003年)も収録! 高 護氏による豪華ライナーノーツ付!



Goggle-A are
Vo. Gt. / Gaku Kamachi
Gt. Cho. / U-1 Ace
Ba. Vo. / Noriko Olive
Dr. Vo. / Erikuri
www.goggle-a.com

収録曲	(発表年月)
01. ロリポップ・リップス	1964.2
02. ルイジアナ・ママ	1961.12
03. ハートでキッス	1964.9
04. カマ・カマ・ベイビー	1962.9
05. 僕のマシュマロちゃん	1964.2
06. ローヴン・カインド(浮気娘)	1964.4
07. かっこいいツイスト	1962.7
08. かっこいい彼氏	1962.8
09. アカバルコのお転婆娘	1962.4
10. 恋のジェット・コースター	1963.3
11. ザッツ・オール・ユー・ゴッタ・ドゥ	1961.3
12. ハンガリア・ロック	1962.7
13. 浮気なスー(悲しき恋の物語)	1962.1
14. 別離(わかれ)	1965.8
15. ダンシングロンリーナイト	1967.10
16. シェーナ・シェーナ	1962.9
17. 坊ちゃん坊	2005.9

ライナーノーツより

「漣健児のファン」という人が世の中にどのくらい存在するのかは知りませんが、少なくとも私とこのアルバムの主役であるゴグルエースは無条件かつ確実に「漣健児のファン」なのでそのあたりを中心に簡単なライナーノーツを書かせていただこうと思います。

漣健児は日本の大衆音楽にとつてもなく大きな影響を与えたカヴァー・ポップスの優れた訳詞家です。いうまでもなく日本のロック/ポップスの始祖でありバイオニアであり真のオリジネーターです。すべての作品は若者による若者の音楽で、即ちそれはロックン・ロールです。

その作品数は400を越えるといわれますが、デビュー作「ステキなタイミング」や「可愛いベイビー」「好きさ好きさ好きさ」といったメガヒットの他、新田宣夫名義で発表された「赤鼻のトナカイ」や音楽の教科書にも載っている「恋はみずいろ」等、漣健児の名前は知らなくてもその作品は誰しもが必ず一度は耳にしているはずです。

このアルバム「ビックリ キョーテン ウチョーテン」は全曲が漣健児作品のカヴァー作品で、唯一ボーナストラックに収録されている「坊ちゃん坊」がゴグルエースのための書き下ろしのオリジナル作品です。

タイトルの「ビックリ キョーテン ウチョーテン」は代表作である「ルイジアナ・ママ」の歌詞の一部です。普遍的ともいえる強烈なフレーズと斬新なリズム解釈こそが漣健児の持ち味であり、そしてそれはそれ以前の日本の音楽には存在しなかった音楽です。

とはいえ叙情性みtainな要素も「別離」や「砂に消えた涙」「渚のデイト」といったメロウムードな作品を聴けばわかるように漣健児の作品のひとつのカラーでもあります。

またガール・ポップの源流にも「ウクレレ片手にお散歩よ」「バイナッブル・プリンセス」や「大人になりたい」「ロリーポップ・リップス」といった傑作が星の数ほどあります。

そしてリズムやフレーズのインパクトの部分で語られがちな漣健児ですが、歌詞の世界の特徴のひとつに「日常の真理」が挙げられます。代表的なのは「ハンガリア・ロック」でもしこの世に男と女がいなかったら この地球の上に住んでも意味がない こそはまさに漣健児の世界です。ゴグルエースが初めてカバーした漣作品もこの曲とのことです。平凡な日常を非凡な「作品」にできることが漣健児のすごいところで凡人になかなか作れるものではありません。

つまり「ハンガリア・ロック」や「アカバルコのお転婆娘」のようにもともとインストゥルメンタルで歌詞のついていなかった楽曲にこそ、日常の世界をエンターテインメントの世界にアダプトしてしまう漣健児の世界が堪能できるともいえます。

そういった意味で書き下ろしの「坊ちゃん坊」は感慨深い作品です。

2005年6月6日に病のためにお亡くなりになった遺作ともいえる「坊ちゃん坊」は漣健児の魅力と本質が凝縮された作品で漣健児ファンにとって「感激」の一語です。

あと個人的には「ザッツ・オール・ユー・ゴッタ・ドゥ」が収録されていて本当にうれしかったです。漣健児にとって弘田三枝子と並ぶ最重要ガール・シンガーである田代みどりのカヴァーですが、昂揚しながらもせつなさを携えた田代みどりヴァージョンはオリジナルのブレンダ・リーに勝るとも劣らない素晴らしい出来映えでしたが、ゴグルエースのカヴァーも見事な歌いっぷりです。

ビックリキョーテンウチョーテン レコ発ライブ予定

(w/Tiki Tiki BambooooS・ドイツ)

- 9/29 (Thu) 八王子RIPS
- 9/30 (Fri) 仙台enn
- 10/1 (Sat) 水戸SONIC
- 10/2 (Sun) 横浜BLUE JAY
- 10/4 (Tue) 豊橋BIRTH
- 10/5 (Wed) 神戸BACK BEAT
- 10/7 (Fri) 福井CHOP
- 10/8 (Sat) 長野NEONHALL

Tour Final !!

- 10/9 (Sun) 六本木ロサフィエスタ

2005年7月31日
高 護